

第4章

活動成果

1. ASEAN 連携大学からの学生受入れプログラム

ASEAN 学生に対しては、千葉大学における科学教育・研究交流活動をツインクル科目（1 科目 2 単位）として開講した。これをもとに ASEAN 学生のツインクル活動を評価し、単位と修了証を授与した。

活動は以下の 3 部門から構成されている。

(1) 本学学生との授業作成における協働

受入れた学生は、滞在期間中に千葉大学の学生（派遣学生）と協働して教材や授業案を作成した。このように日本の学生と ASEAN 諸国の学生が、ASEAN 学生来日時にバディを組む（日本 2 週間+現地 2 週間（トライアルコース））という形で派遣前から親交を深め、文化習慣・言語等を学び合うことも目的としている。

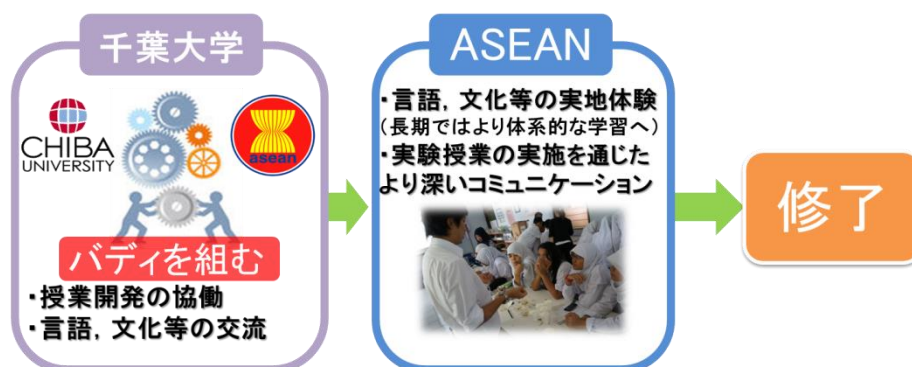


図 1 受入れ時および現地実習におけるバディシステム

彼らは帰国した後も、SNS 等で日本にいる派遣学生と交流を深めながら教材や授業案を完成させていった。そして、派遣学生が ASEAN 連携大学で活動するときには、日本で協働して教材を作成した ASEAN 連携大学の学生が派遣学生をサポートする体制を整えた。このような双方向活動は、第 1 回目の TWINCLE コンソーシアム会議の協議で作り上げたプログラムである。

(2) 研究室体験・実習

受入れプログラムにおいて、研究交流に対するニーズが高かった。そのため、ASEAN 学生の個々の専門に考慮して研究室配属を行い、3 日間のオープンラボを実施した(図 2)。具体的には、派遣予定学生が所属する各研究室での研究室体験を行い、千葉大学で行われている研究の魅力に触れた。平成 26 年度には、工



図 2 閉鎖型植物生産研究施設体験

学以外の理系（特に理学・園芸学）にも派遣参加学生が増え、受入れにおいても同様に参加する研究室が増え、計 44 研究室が参加し、他研究科が約 3 分の 2、教育学研究科が約 3 分の 1 の受入れを担った。

また、長期受入れ（ロングコース）の場合は、長期間にわたる研究室実習も行った。これにより、本学研究室・教員の国際化と、国際的な共同研究活動を継続的に行う基盤が整った。この結果、受入れ学生の 3 分の 2 が、本学大学院への入学を希望した。

(3) 受入れ学生による県内の学校での教育活動

また、日本での ASEAN 学生によるツインクル授業を実施できる体制が整い、本年度から県内の小学校・高校での ASEAN 学生による教育活動を実施した。本学学生同様、受入れ学生が自身の研究トピックや、自国の文化に関するプレゼンテーションを行った。

また高校生とは、彼らが進めている研究についての成果発表や意見交換を活発に実施することができた。このような取り組みにより、大学の国際化の成果を還元するシステムの基盤形成も進められた。

2 千葉大学学生による留学生サポートプログラム：千葉大アンバサダー

ツインクルプログラムでは、留学生の受け入れプログラムも実施しており、本学以外で実施される活動も含まれる。そのため、引率等、留学生の活動のサポートと、本学学生と留学生との英語での交流を促進することを目的に、千葉大学学生による留学生サポートプログラムである「千葉大アンバサダー」を創設した。本プログラムの主な対象は、学部 1，2 年生を想定している。すなわち、彼らが留学生との交流を通して、英語に対する過度な苦手意識を取り除き、海外への興味を醸成することによって、英語学習や留学への動機づけを早期から図るためである。また、ツインクルプログラム経験者には、本プログラムにおいて、リーダーとして参加し、本学の学生と留学生の交流を促進する経験を積ませることによって、グローバルリーダーとしての資質を涵養することをねらっている。本プログラムに参加する本学教育学部学生は、これまで当然と思われてきた日本の教育制度や指導方法を留学生の別の視点から捉え直す機会となり、通常授業への取り組み方が変わることもまた長期的には期待される。本プログラムの募集パンフレットを次頁に付す。

「千葉大アンバサダー」大募集！

「千葉大アンバサダー」とは？

「留学生の日本での活動をサポートするメンバー」を指します。

「千葉大アンバサダー」の役割？

留学生の引率が主な役割です。留学生が高校等を訪問する際に、彼らの活動をサポートしてもらいます。「千葉大アンバサダー」に登録し、都合の良い日のみの参加となります。学業最優先！



10/9に千葉東高校で先行実施された活動の様子（千葉大アンバサダー2名、留学生6名）

「千葉大アンバサダー」創設の背景？

現在、ツインクルプログラム等で千葉大学に滞在中の留学生が、高校等を訪問し、高校生らと交流する活動を計画しています。この活動では、留学生が自らの研究や自国の文化を高校生に紹介します。留学生のサポートの必要性和、千葉大学学生と留学生との交流促進という観点から「千葉大アンバサダー」は創設されました。

〈その他〉

- ・ それぞれの引率ごとに一名「リーダー」を決めてもらいます。リーダーの役割は、「非常時に大学と連絡をとること」、「写真付きの簡単なレポートを書いてもらうこと」です。「レポートを書いてもらうこと」に対して、リーダーには、約1,900円がTA代金として支給されます。
- ・ 交通費は引率者全員に実費支給されます（基本的に、西千葉駅からの往復）。
- ・ ツインクルプログラム参加者以外でも「千葉大アンバサダー」になることができます。

業務分担のため、この活動は次世代才能支援室（準備室）（横田、田村）が中心に担当します。この活動に関して、以下のように進めていくことになります。

1. ツインクルオフィスからみなさんへ案内（例：11月12日に・・・の日程で参加者を募集します）
2. 参加希望者は「次世代才能支援室（準備室）」へ連絡（例：氏名、学籍番号、連絡先、参加できます！）
3. 「次世代才能支援室（準備室）」（横田、田村）から詳細連絡
4. 「リーダー」は後日レポート提出

連絡先（担当：横田、田村）ツインクルオフィス隣り「次世代才能支援室（準備室）」

Tel: 043-290-2584, Email: jisedai-ap@chiba-u.jp

3 千葉大学学生の派遣プログラム

平成 26 年度には以下のように計 84 名の学生派遣を行った。また、6 名の教員が引率し、現地での学生指導に当たった。

| 国 | 大学 | 滞在日 | 学生派遣数 |
|--------|-------------------|-----------------|-------|
| タイ | チュラロンコン大学 | 2014, 8/18-8/31 | 9 名 |
| | キングモンクット工科大学トンプリ校 | 2014, 8/25-9/7 | 13 名 |
| | マヒドン大学 | 2014, 8/25-9/7 | 4 名 |
| | カセサート大学 | 2015, 2/18-3/1 | 4 名 |
| インドネシア | インドネシア大学 | 2014, 9/8-9/21 | 10 名 |
| | バンドン工科大学 | 2014, 9/8-9/21 | 8 名 |
| | ガジャマダ大学 | 2015, 2-16-3/1 | 8 名 |
| | ボゴール農科大学 | 2015, 2-16-3/1 | 6 名 |
| | ウダヤナ大学 | 2015, 3/2-3/15 | 8 名 |
| ベトナム | 国家大学ハノイ校教育大学 | 2015, 3/2-3/15 | 8 名 |
| シンガポール | ナンヤン理工科大学 | 2015, 3/2-3/12 | 4 名 |
| カンボジア | 王立プノンペン大学 | 2015, 3/2-3/11 | 2 名 |

以下は、大学ごとの現地活動の詳細報告である。